

令和4年5月19日

議会報告会報告書

議会広報広聴特別委員会委員長 森田 洋一 様

議会報告会 3班(市民経済委員会)

班長 野田 宏規

渡辺 仁二

高橋 光

斉藤 真理

阿部 治正

藤井 俊行

青野 直

私の班は議会報告会を開催し、その概要は下記のとおりでしたので、ご報告します。

記

1 日時 令和4年5月14日(土) 午前9時30分～午前11時30分

2 場所 生涯学習センター 多目的ホール

3 欠席議員 なし

4 来場者数

市民来場者11人、議員・職員5人(合計16人)

5 報告内容

流山市クリーンセンターごみ焼却施設長寿命化総合計画について

6 意見交換内容

(市民) 延命化工事が予定されているのは焼却施設の中のどの設備か。

(議員) 燃焼設備が中心で、3炉の工事をひとつひとつ進める。最後は3炉共用の設備の整備になる。

(市民) 設備の老朽化の評価は誰がどのように行ったのか。炉の老朽化についての評価の過程、評価点はどうだったのか。

(議員) クリーンセンターの所長、環境部長を通じて、国の基準に合っているかどうかを検討をして、最終的には市長決裁で決定している。市が契約しているスーパーバイザーと市が協議をしながら計画を策定している。建て替えて建屋も含めて全てを更新すると予算が大きくなる、長寿命化だと少し安くてすむ。市が委託をして長寿命化総合計画を策定したのは環境技術研究所。

(市民) 焼却炉の耐用年数は20年が目安と言われるが、焼却炉は実際には160カ月、13年と4カ月しか動かしていない。20年で1炉当たりでは6年8カ月しか経っていない。何を根拠に老朽化していると言い、延命化が必要だと言っているのか。市の職員は専門知識が無い、委託事業者も技量が無い、どこかの業者に丸投げをして延命化だと言っているだけ。ちゃんとした評価をするべきだ。みんな隠している、表に出すべきだ。ごみはすべて燃やす必要はない。資源化すればよい。市にはそうした発想がない。

(議員) 偏った運転の仕方はしていない。3炉を平均して動かすようにしている。
議員の側からも、燃やすごみを少なくするためにコンポストの助成などを提案して4月から実施している。

(市民) 洪水ハザードマップを見るとクリーンセンターは洪水地域に入っ

ている。昨年はまだ少しで溢水の可能性があった。洪水対策、強靱化対策についてはどう考えているのか。

(議員) 市当局はまずは延命化計画を先に実施し、その次に強靱化対策を実施することになっている。市としても強靱化の必要については良く理解をしているようだが、市民経済委員会としても対策の実施について強く訴えていきたい。

洪水対策についてはクリーンセンターの施設の対策だけでなく、国交省が江戸川の堤防の強化も順次進めている。

洪水対策については、排水施設の機能の強化、防水シャッターや防水扉の設置が検討されている。しかしこれらは強靱化対策として、延命化工事をまず行った後に予定されている。

(市民) 延命化に伴うCO₂削減目標を5%としているが、今現在はCO₂はどれくらい出ているのか、5%達成のためにどのような対策を取ろうとしているのか。

市民の声を反映させるという観点から見た場合、令和5年からの工事が始まってしまうのだからその前に市民の意見を聞く作業をしないと無理がある。市民の声をどのようにして汲み上げていくつもりなのか。

3炉の工事を順番に行うという事だが、どのように進めるのか。

ごみの収集エリアは3エリアなのか4エリアとしたほうが合理的ではないのか。

(議員) CO₂の排出量については今資料を持ち合わせていないが、大きな課題だと受け止めている。

収集エリアは現在のところ3エリアとなっている。

(議員) 5%の削減は国の補助金を得るためには必ず実現しなければならない目標として設定されている。目標達成の方法としては、焼却施設で大きな電力を使用するモーターの効率をアップすることでCO₂削減に貢献することもその一つ。

(市民) クリーンセンターが建設されるときに、井崎市長は小規模な施設を推奨した。私たちは大は小を兼ねるという観点から大きなものを作っておいた方が良くと主張した。当時は人口も17万人、いまは予想通り人口が急増して20万人を超えた。いまは3炉をフル運転、1炉が故障したら大変なこととなる。燃やすごみを減らすことも重要な課題。ごみ減量は市民一人一人が努力をしている。総合的な取り組みを行わないとごみ問題は解決が難しいと思う。

し尿処理への予算の投入が増えている。何が原因なのか。

(議員) ごみ減量への市民の取り組みの好例、積極例などを紹介しながら、市民と意見交換をすることが重要だと思う。

し尿処理については公共下水道にすぐにはつないでいただけない地域もある、流山市域は工事が多いところなので仮設のトイレも多く設置されていることが影響しているかもしれない。

現在の焼却炉の建設当初、111トン3炉で合計330トンの計画が提案されたのは事実。その時は市民の意見を入れて69トン3炉の207トンの炉の建設となり、現在まで稼働してきている。今思えばなぜ330トンにしておかなかったのかとの意見はご意見として聞かせていただく。

(市民) 延命化工事の場合は新設更新よりも48億3千万円の節減効果があるとされているがその根拠は議会に示されて、その上で賛成したのか。延命化を選ぶことで長い目で見れば高くつく、新設の方が合理的という事もあり得る。延命化の方が更新より安くつくという技術的判断をできる職員は流山市にいるのか。業者の言いなりという事はないのか。議会にはぜひ監査の目をもって審査をして欲しい。

延命化の方が安くつくという根拠資料は情報公開請求をすれば出てくるのか。

(議員) 丸のみとか言いなりとかではなく、専門職の職員もいるので、技術的、総合的な判断に基づいている。

(議員) 更新はまっさらにする、延命化は今ある焼却施設を手を加えて長く使えるようにするという事。新車を買うか今乗っている車をメンテナ

スしながら乗るかの違い。

(議員) 議会に示されたのは概算であり細かく詰めた数字ではない。当然延命化の方が安くつく。延命化の工事計画を立てて実施するのは荏原製作所。

情報公開請求をすれば基本的にほぼすべての資料は出てくると思う。

(市民) 東武市民プールの閉鎖と東小学校のプールの開放問題で、市は誤った資料、前提の異なるアンケートを使っているが、これは詐欺の様なもの。自治会への説明会開催のお知らせも2週間前では短すぎる。駐車場の解体費は6千万円、プールの修繕費は3千万円などおカネの説明もあいまい。また、東小学校のプールを学校開放することで市民プールの代わりに使うというやり方も、セクハラ、盗撮、不審者の出入りなどをチェックできないなど問題が多い。底上げプールも乳幼児には危険だ。東小学校のプールの開放はやめて欲しい。どうしてこんなものを認めたのか。一人一人の議員の意見を聞きたい。

(議員) 市の計画に反対の市民もいたが、賛成の市民もいたと認識している。水泳の授業は義務教育では絶対的なものではないと思う。

(議員) 東小学校のプールをこれからどのように利用して市民の皆さんに喜んでいただくかを考えている。

(議員) 小中学校のプールはだいぶ古くなって、修繕をして保っている状態。どこかのスイミングプールを短期に夏だけ借りるなどの発想の転換が必要となっている。執行部が安全対策を真剣に検討しているという事を確認して賛成した。

(議員) 子育てをしていた時を思い起こせば、25メートル、幼児用だけの流山市の公共プールはあまり魅力的ではなかった。問題提起をされている痴漢防止、更衣室の対策などにしっかり予算をかけて快適に使えるものになればよいと思う。

(議員) 議会で反対した理由は、あまりに拙速にことが進み過ぎている、子どもたちの安心安全という点で問題点が解決されていないという判断だった。プールの維持にはおカネがかかるのは事実だが、教育の一環としては必要だし、民間に委託をするという発想は間違い。

(議員) 大きな問題は市民の声を聞かずに進めていること。昨年3月に一般質問で取り上げた。東部市民プールは38年間浄化設備の交換をしていなかった。延命化計画があったにもかかわらず廃止をしたのは問題だと思い反対をした。

(議員) 学校での水泳の授業は昭和40年代の水難事故をきっかけにして始まった。スイミングスクールなどと提携をして短期集中で泳法を身につけるという方法もある。今回の計画は東部公民館の駐車場スペース確保の課題も関連している。

(市民) 過剰包装がごみの量を増やしている。生ごみのコンポストのように、ごみを減らす方法を積極的に提案していくことが必要。八潮市はHPでの積極的な問題提起や啓発を行っている。市の情報発信の仕方などでだいぶ変わっていくのではないかと。

(議員) 流山市では一人当たりの家庭ごみの量は減っている。増えている事業系のごみをどうやって減らすかが重要な課題。その施策が見えてこない点が問題。燃やすばかりではなくリサイクルをどう進めるかも重要。指定ごみ袋導入でごみが減量したかどうかを検証する必要がある。

7 参加者から議会への要望

特になし。

8 所感

野田 宏規

老若男女多くの方にご参加いただき、非常に有意義な会となりました。時折、議員側の見解を厳しく糾弾するような一幕もあり、そのことについて

ては課題を感じることもありましたが、大方は建設的な意見交換ができたのだらうと思います。また、議員側の資料不足を痛感する節もございましたが、執行機関ではないことも考えると、どの程度の資料をどの程度準備すべきかについても課題が残ると感じました。ご参加の皆様ありがとうございました。関係者の皆様、お疲れ様でした。

渡辺 仁二

ごみ処理施設の長寿命化がテーマでありましたが、参加者からは民間では選定基準を設けておこなうが、流山市の選定基準はどうなのかといった意見が出た。また、他の市民からは過剰包装への対応を民間企業に求め、流山市では民間企業にもゴミ削減を求めているので市民にも是非ご協力をとったアイデアがあった。議会報告会は意見の聴取が重要であると感じました。また、テーマとは違う事について発言する方もおられたが、他の参加者に戸惑いを感じられた様に思います。議会報告会は、なんでも発言をしても良い機会では無いと思いますので、ルールづくりに課題を感じました。

高橋 光

出された意見では、焼却炉の延命化についての決定内容に疑問が出され、市民の税金の使われ方に納得いくような説明が大切なこと。また、東部市民プール廃止について、東部地域の市民の説明が不十分さと、東小に移行することの危険性を指摘されましたが、もっともな意見でした。

若い方が複数参加されていて有意義な報告会でした。これからも市民へどのようにアピールして、会場一杯になる工夫を考えることが課題かと思えます。

斉藤 真理

若い世代の方の参加もあり、全体的には有意義な意見交換ができたように思う。今回は司会をさせて頂いた。一人の方ばかりが発言するのではなく、なるべく多くの参加者の方が発言できるよう配慮したつもりだが、どうだっただろうか？

議会報告会のたびに感じるのは、単に批判するための発言の場では

なく、議員と市民とが、フランクに意見交換できる、前向きな議論の場をどうしたら作れるか、ということである。今後の課題として、他市の事例なども研究していきたい。

阿部 治正

率直で活発な意見交換が行われた点は良かった。ただ、市民の中に、市の執行部には専門家がひとりもおらず業者に丸投げをしているとか、延命化が合理的とする判断の具体的な根拠が全く示されないで審査が行われたかの誤解が見られた点については、議会側が具体的な審査過程や数字などについての資料を用意していれば、よりかみ合った意見交換になったのではないかと思う。

また、問題意識や意見の相違を、相手の無知や不勉強のせいと決めつけて非難する議論の仕方は、まだ克服されておらず、今後の課題だと感じた。

藤井 俊行

クリーンセンターごみ焼却施設の長寿命化について説明後に質疑を行いました。

市民から細かな数値に対する質問もありました。特定の方が、長く何項目も質問していましたが、一人ひとりの質問は簡潔にさせていただき、多くの出席者が質問できる場になると良かったと思いました。どうしても議員に批判的な質問をしたいという方の参加があります。このような方の発言は適さないように場の雰囲気を持てるように、建設的な前向きであり、提案型のような質問が出ると良いですね。大きな声で批判的な質問が多いと他の参加者が良く思わなく、場が白けてしまいます。議会報告会参加初心者からの質問を多くとれるようにすると今後の改善に繋がると思います。

青野 直

令和4年5月14日に開催されました市民経済委員会での第22回議会報告では、市民生活に直結する「ごみ焼却施設長寿命化」ごみ問題をテーマに開催されました。

当日の資料としては、流山市クリーンセンターごみ焼却施設長寿命化

総合計画についてと、2019年3月に策定されました「流山市一般廃棄物処理基本計画」を配布して議員と参加者との意見交換をいたしました。参加者からはゴミ問題について勉強しようと思いましたが、議会としてはゴミ問題について何をしていくのかを議員が語るのも大事ではなかったのか等について語ることによって議会報告会としてはよかったのではないかと言う前向きな意見もあり、非常に有意義な議会報告会であったと考えています。

令和4年度から令和7年度までの4カ年継続事業として大きな予算を投入しての大型事業でありますので、議会としてもゴミ問題についての情報を積極的に提供し、市民ぐるみで「ごみ焼却施設長寿命化について」取り組み事が大事だと考えました。そして、ごみ減量・CO2削減等々にこれからも市民ぐるみで取り組みことの必要性を強く感じた議会報告会でした。これからも引き続き議会報告会を継続していかなければならないと考えています。